

みんなで森づくり

「これはイモ穴だな。」山の斜面にある深さ1尺の穴を見て、養沢の自治会長は話します。「サツマイモは寒さで痛みやすいから土の中のあたたかさを利用して保存したんだよ。」なるほど、そうだったのか！あきる野の森を1年歩いてきたので、森で出会う多少の不思議は想像できる様になりましたが、この地に生まれ育った方にはかないませ

ン。今回は古道整備の下見で森に入ったのですが、地域の方と一緒に森を歩くと、昔の人が今よりも自然とつながりを持って生活していたことがよくわかります。イモ穴に保存しておいて、イノシシなどの野生動物に食べられなかったんですか？と質問すると、「昔は、雑山（広葉樹林の山）がたぐさんあつたから、動物のイサはたくさんあつたんだよな。だから、食べられたりしなかった。戦後に、人間がスギやヒノキを植えるために雑木を切ったから、動物のイサが減っちゃったんだよなあ。」

かつて、多摩地域の森は広葉樹林が多くを占めていました。しかし、戦後の拡大造林により針葉樹林化が進められ、あきる野では山林の76％がスギやヒノキなどの人工林です。野生動物にとつて針葉樹林も大切な生活の場となっていますが、イサとなる動植物が少なくなつたのは間違いないですね。春から初夏にかけて、ヤマザクラやキイチゴ類の種子と昆虫が交じつた野生動物のフンをいたる所で目にしました。多くの実をつけるヤマザクラやキイチゴ類、

春の訪れとともに増える昆虫が野生動物の命を支えています。左の写真を見てください。これはイチヨウです。正確にいうと、イチヨウの実がタヌキに食べられ、その種子がお母さんイチヨウから遠く離れた場所にフンとして落とされ芽をだしたイチヨウです。タヌキの無意識？の森づくり！

皆さんも森づくりをしませんか？あきる野の森のために何かしたいという方がいらつしやいましたら、森林サポーターレンジャーを募集していますので環境の森推進室までお問い合わせください。

加瀬澤



タヌキのフンから
発芽したイチヨウ